



さわやかな青空に、秋色に色づいた草木が美しく映える季節を迎えています。皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、7月には、お忙しい中「作品展アンケート」のお返事をいただきありがとうございました。アンケートをいただいた中から、たてわり活動・親子造形活動・全校作品づくりを取り入れた6校の作品展の様子をお知らせします。

名古屋市立御劔小学校

音楽や映像を、
作品展に取り取り入れました！

命がめぐる星—この地球に生まれて—



平成26年11月14日(金)・15日(土)

1 ねらい

- (1) 子どもたちが、生命と生命を育む地球環境に関心をもち、よりよい未来を望む意識を高める。
- (2) 一人一人の子どもたちが、造形的な活動を楽しみ、材料に親しみながら自分の思いを表現し、作品のよさを味わうことで、学校生活をより豊かにすることができるようにする。

2 活動内容

作品展のねらいである『生命と生命を育む環境について 理解を深める』は、学校教育努力点目標『つながり 高めあって 自ら進んで学ぶ』の実践の一つとして取り組んだ。この作品展では、共同作品づくりに加え、全校児童270人による音楽に合わせたリーディングと、全校合唱を行った。



これは、桃井和馬著の『生命がめぐる星—地球—』の映像や、杉本竜一作詞作曲の『この星に生まれて』の音楽を使った、視覚や聴覚を駆使した取り組みである。

映像や音楽からイメージした「地球でしか生きられない全ての生き物の生命を守るのは、我々人間である」といった生き物への思いをもとに、一人一人が熱心に作品をつくりあげることができた。

最強のパフォーマーであり、最高のメッセンジャーである子どもたちの訴える力は大きい。テーマに対する思いをみんなで共有したことも、作品づくりにおいてより大きな意味があった。

大型スクリーンに子どもたちの作品紹介の映像を映し出したことで、作品に対するつくり手の思いに一層触れることができた。映し出される生き物たち、リーディングや全校合唱で熱演する子どもたちの姿に涙する保護者も少なくなかった。

低・中学年の作品では、生き物を慈しむ心情が表れた作品が多く見られた。高学年の作品では、生命があることへの感謝の思いや、地球環境の保全を意識した未来の自分を表現する作品が多かった。

視覚・聴覚からのイメージや、映像や音から感じる心の動きにより、子どもたちの作品づくりにも変化が見られ、作品への思いが一層感じられるものになった。



【全校リーディングと全校合唱】



【5年生の共同作品】
『自然に親しむ中津川のジオラマ』



【6年生の共同作品】
『児童写真数千枚で作られたもの』

探検しよう 西山の森



平成26年11月21日(金)・22日(土)

1 ねらい

- (1) 材料や表現方法を工夫しながら、思ったことや伝えたいことを、絵や立体で表現できるようにする。
- (2) 造形作品に親しみ、互いの作品のよいところを認め合う態度を育てる。

2 活動内容

本校は39クラスあり、児童数は約1,350人の大規模校である。展示スペースの確保のため、学校全体を森に見立てて、森を巡るようなイメージで鑑賞すれば、校舎全体に作品を展示できると考えた。

学校全体を森に見立てる

(会場…体育館・廊下・土間・特別活動室・外国語活動室)

- 中央土間から廊下……「森へ続く道」
- 体育館・特別活動室・体育館下廊下…「森」
- 会場出口からの廊下…「森を抜ける道」



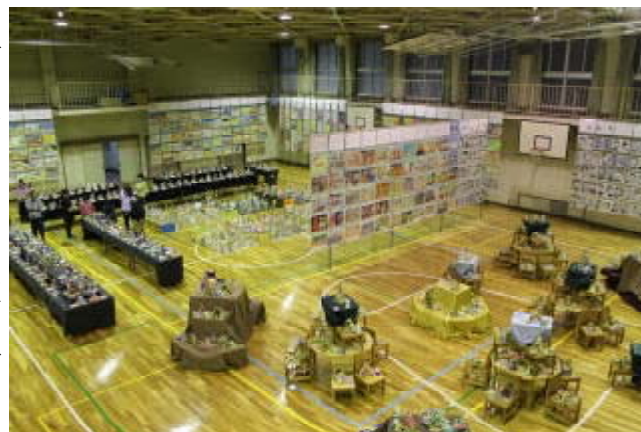
夜間には電飾が光る看板
～森への入口～



中央土間と廊下の作品
～「森へ続く道」と
「森を抜ける道」～

本校は、ペア学年との交流活動をしている。「森へ続く道」と「森を抜ける道」には、ペアでテーマについて話し合っ決めて、森にいると楽しい生き物を選んだり、想像したりして描いたものを一人一作品展示した。

「森」に見立てた体育館・特別活動室前の廊下には、各学年がテーマを決めて展示した。「西山の森」には、子どもたちが精一杯取り組んだ作品が並んだ。



体育館の展示
～「森」～

鑑賞活動は、学年ごとに時間を割り振って行った。その後、ペア学年でお互いの作品の説明をし合ったり、一緒に作品を見て回ったりした。この活動では、自分の作品への思いを伝えたり、鑑賞している作品への理解を深めたりすることができた。

広い展示スペースを確保することで、鑑賞する子どもたちや保護者がゆったりと作品に向き合うことができた。その結果、作品のよさやつくる人の思いをじっくり見て感じてもらえることにつながった。

今後も、子どもたちへの指導の在り方や作品の展示の方法を工夫してよりよい展覧会にしていきたい。



体育館廊下の展示
～「森」～



特別活動室の展示
～「森」～

プラチナ アート フェスタ 2014 ー思いを形にー

平成26年11月14日(金)・15日(土)



1 ねらい

- (1) 造形的な活動の学習成果を発表することを通して、思いを表現するこの楽しさを味わわせ、造形活動への意欲を高める。
- (2) 学級やたてわりグループ・保護者と共同でつくる活動を通して、協力し合ってつくり上げることのすばらしさを実感することができるようにする。
- (3) 互いの作品のよさや美しさ、表現方法などに関心をもって鑑賞し、作品の価値を尊重する態度を養う。

2 活動内容

(1) 各学年の題材

| 学年 | 平面作品 | 立体作品 |
|----|---------------------------|------------|
| 1年 | のってみたいな | はこのなかまたち |
| 2年 | ふしぎなたまご | どうぶつさんのおうち |
| 3年 | はんをつかって | ガラスびんのへんしん |
| 4年 | 心にのこったそのことを | 切って切って木の世界 |
| 5年 | 刷り重ねて表そう | 使って楽しい焼き物を |
| 6年 | 表し方を工夫して～地域のお気に入りの場所を描こう～ | 12年後のわたし |

(2) 個人の製作と共同製作



【学年での製作】

《個人作品》

- ・ 単学級で児童数が少ないため、一人一人の作品を大きくつくり、体育館を華やかにする工夫をした。

《学年での取り組み》

- ・ 画用紙を思いつくままにどんどんつけて、描きたいものを大きく表現した。
- ・ 学級で3つのテーマを決め、共同で版画を製作し、それを合体させた。
- ・ 『アナと雪の女王』をイメージし、ガラス瓶で人物を表し共同で城を製作した。

《たてわりでの取り組み》

- ・ 製作時に、遠足や集会等で行う異学年交流のたてわり活動を取り入れた。
- ・ 体育館上部からツリー状に釣り糸を垂らし、ペットボトルの花を飾り付けた。「たてわりシンボルタワー」として、展覧会の核をなす作品となった。



【シンボルタワー】

(3) 親子造形遊び：作品展2日目

全クラスの教室や、コミュニティールームにて、スタンプラリー形式の造形遊びを楽しんだ。各教室での造形遊びに星の数で表す難易度を取り入れ、児童が取り組みやすく、参加人数に偏りが出ない活動の場とした。

学級において、保護者の参加の有無や兄弟関係に配慮して保護者との2人組をつかった。2人組でスタンプカードを持って造形遊びの場を巡った。児童は、材料の色や形のよさを味わったり、つくりながら作品の動きを楽しんだりしていた。活動場所は、一か所にとどまらず、「もっとつくりたい」「他の部屋にも行きたい」と次々と積極的に挑戦する姿が見られた。



【親子造形遊び】

世界を巡ろう 東海大サーカス



平成26年11月14日(金)・15日(土)

1 ねらい

- (1) 文化的行事として、日常の学習成果を基にして発表する機会をもち、学校生活をより楽しく豊かなものにする。
- (2) ものづくりの楽しさを親子で味わえるようにする。

2 活動内容

体育館全体をサーカス小屋に見立て、各学年の作品がサーカス小屋を彩る芸術作品として展示を行った。

| 学 年 | 平 面 作 品 | 立 体 作 品 |
|------|-----------|--------------|
| 1 年 | のってみたいな | はこのなかまたち |
| 2 年 | ふしぎなたまご | ぼうしをかぶって |
| 3 年 | はんをつかって | ガラスびんのへんしん |
| 4 年 | 等身大の自分 | 切って切って木の世界 |
| 5 年 | 大切なもの | 世界の町をのぞいてみたら |
| 6 年 | 墨から感じる形や色 | 12年後のわたし |
| 特別支援 | あおばかるた | メリーゴーランド |

体育館に入るまでの通路や入り口にも、鑑賞する人が見る楽しみやサーカス小屋へのイメージをもてるよう、電飾や布を使った飾りを工夫した。

初日に児童の鑑賞時間を設け、各学年で鑑賞を行った。夜間の体育館開放を通して、多くの地域の方々に鑑賞していただいた。

会場の中央には、大きなモニターを設置し、各学年の製作過程をスライドショーとしてランダムに映し出した。また、モニターの前にじゅうたんと椅子を設置することで、展示作品の鑑賞や、製作時の児童の表情や作品の製作過程を、じっくりと時間を掛けて鑑賞することができ、好評であった。

2日目は、親子ワークショップを行い、紙コップを使って『自分』の人形をつくった。紙コップの『自分』をサーカス小屋の自分の作品の近くに飾り、よりにぎやかな展覧会会場へと盛り上げた。

2日間を通し、華やかに変化していく体育館の中で、自分の作品が展示され、みんなで見合ううれしさを感じている児童がたくさん見られた。



【サーカス小屋に見立てた会場】



【大型スライドショー】



【親子ワークショップ】

広げよう！見つけよう！みんなの思い



平成26年11月14日（金）・15日（土）

1 ねらい

- (1) 児童一人一人の発想を大切にし、伸び伸びと表現することによって、造形活動の楽しさと喜びを味わう。
- (2) 作品の発想や、表現の美しさ、造形活動の楽しさを満喫し、豊かな感性と認め合う心を育てる。

2 活動内容

一人一作品と全校の共同作品を展示した。学年ごとに展示するもの（平面・立体）が偏らないようバランスよく決めて取り組み、スペースをゆったりと配置することで、一つ一つの作品をじっくりと鑑賞することができるようにした。また、個人の作品には、つくるときの思いや完成した作品についての思いを言葉で表し、作品と一緒に展示するようにした。



| 学年 | 題 材 | | 展示場所 |
|------|-------------------|-----|-------------------|
| たんぽぽ | さらさらステキ！すなえのせかい | 平面 | 壁面 |
| 1年 | わくわくどうぶつえん | 立体 | フロア |
| 2年 | おしゃれなぼうしやさんへようこそ！ | 立体 | フロア |
| 3年 | ものがたりのせかい | 平面 | 壁面 |
| 4年 | ぼくのわたしのゆめの家 | 立体 | ステージ (ブラックライト) |
| 5年 | 楽しく美しく伝えよう | 半立体 | 壁面 |
| 6年 | 版を生かして | 平面 | 壁面 |



【全校共同作品】



体育館の中央には、全校共同作品であるタワーをいくつも並べ、森をイメージすることができるようにした。

作品展の2日目は、授業参観日と併せたことで、時間的にもゆったりと保護者の方々が鑑賞できるようにした。

広いスペースと時間を確保することで、じっくりと作品を見つめることができ、作品の面白さを感じ、よさに気付くことができていた。

児童のみの鑑賞、保護者との鑑賞、友達との鑑賞と、数回にわたって作品展を訪れる姿も見られ、見る楽しさや見てもらううれしさを感じ取ることができる作品展となった。



【作品展全体の様子】

『ようこそ 森西のもりへ！～ひろがれ みんなの思い～』

平成26年11月7日（金）・8日（土）



1 ねらい

- (1) 一人一人がつくることの喜びを感じ、いつまでも大切にしたいと思うような作品をつくることで、造形活動の楽しさを知り、今後の活動意欲を高める。
- (2) 作品をつくる過程やできあがった作品を鑑賞する中で、子どもたちが見せたい・伝えたい・見ることが楽しいと思うことができるようにする。また、友達のよさを認め合うことができるようにする。

2 活動内容



(1) 『森西のもり』の製作

一人一人の作品に加え、『森西のもり』といったイメージを学校全体で共有し、全校作品の製作にも取り組んだ。森のイメージに近づけるために、子どもたちは、川や海の生き物をオーガジーの布にペンやパスで描き、天井に森孝の川や海をつくった。

また、デザート空き容器を使って、森の生き物をつくった。「どんな生き物があるかな」と友達と一緒に想像しながら、思い思いに、楽しくペンやパスで生き物を描き、森孝の木をつくった。

作品への思いや、友達の作品を見た思いを楽しく伝え合えるよう、互いに見合える鑑賞の場を設けた。

鑑賞の場では、たてわりでのペア学年の友達の作品の感想を書く姿が多く見られた。



(2) 全校鑑賞：『すてきな樹』

全校の一人一人が、葉の形の紙に、心に残った作品のよいところを書いて、『すてきな樹』に貼る活動を行った。

完成した時、森のような感じになるよう、葉の用紙を十分に用意した。

葉を貼る場所は、学年ごとに位置付け、作品から感じた感想を葉に書き、自分で貼っていくようにした。

また、いろいろな思いにふれることができるよう、保護者も感想を書くことができる場を設定した。

子どもたちは、自分の作品について書いてある葉っぱをじっと見つめ、自分の表現のよさに気付いたり、友達と作品を介しながら話し掛けたりする姿が見られた。



【ひろがれ みんなの 思い】



【いろいろな見方にふれる鑑賞】